

教学監査のポイント

大学共同利用機関法人
情報・システム研究機構 監事
芝浦工業大学 元学長

村上雅人

学校法人＊における**監事**のミッション

公共性及び運営の適正性の確保を通して
大学の価値を向上させる

＊学校法人：私立学校の設置・運営を行う非営利法人
私立学校法（昭和24年）の定めるところにより設立される

海外大学における**監事（組織）**のミッション：

To enhance university values by providing advice and insight

大学の価値を向上させるため、高い見識のもとに助言や提
言を行う

キーワード：**大学の価値向上**

そもそも大学の使命とは何だろうか

大学の使命とは

- 1 教育
- 2 研究
- 3 社会貢献

イノベーションの創出だけでなく、教育研究を通して人材を育成し、社会に輩出することも重要な社会貢献である。

※私立大学の存在意義として、卒業生が社会で活躍しているかどうかも問われている

私立大学の学長としての経験

保護者からは大学の授業料が高すぎると不満も聞くんが、学生が希望の就職先に決まった途端に、「この大学を選んで本当に良かった」と感謝される

教学監査の位置づけ

監事監査

1 業務監査

2 会計監査

大学における業務監査

1.1 ガバナンス・管理業務等に関する監査

1.2 教学監査

教学：大学の本来の使命に基づく業務

教えと学び

teaching and learning

教学マネジメント

management of teaching and learning

世界水準（グローバルスタンダード）の教育

global standard education

「大学が学生に何を教えたか」 What is taught
から

「学生が大学で何を学んだか」 What is
learned

を大切にする教育への転換

「教え」中心から「学び」中心の教育へ

2008年 中央教育審議会答申
「学士課程教育の構築に向けて」

大学に求められる3つのポリシー（DP、CP、AP）の策定

DP: diploma policy ディプロマ・ポリシー
卒業認定・学位授与の方針（**学士力の獲得**）

CP: curriculum policy カリキュラム・ポリシー
学部・学科における教育課程の編成・実施方針

AP: admission policy アドミッション・ポリシー
入学者受入れの方針

CP: カリキュラム・ポリシー 教育課程の編成

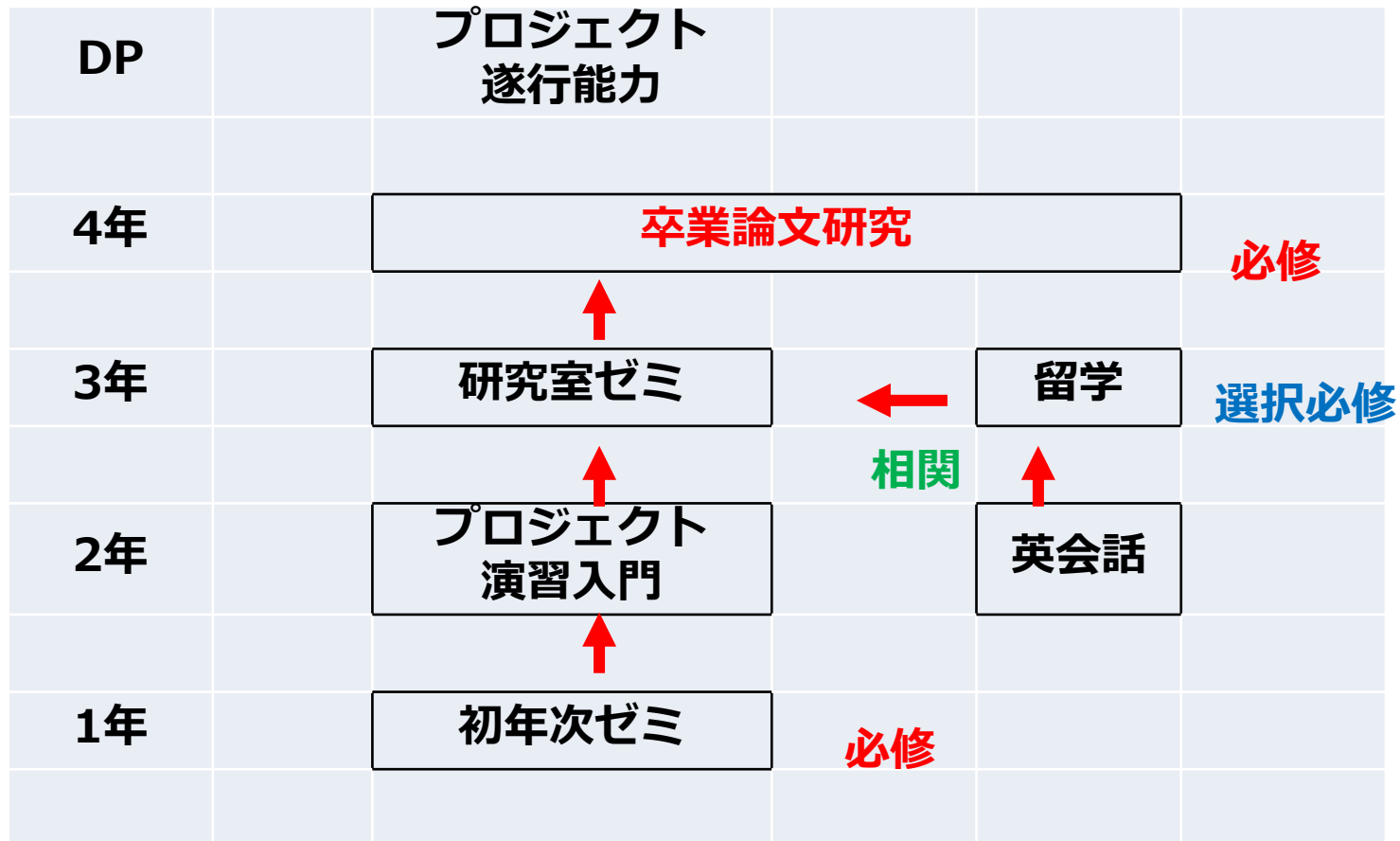
DP: ディプロマ・ポリシー
に記載されている**学士力**を育成するために
どのような科目を配置しているか

例) **学士力 (graduate attributes)**
プロジェクト遂行能力

与えられた制約条件の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

科目名、開講時期、授業時間
カリキュラムマップ curriculum map
DPに掲げた能力を育成するための
標準的なモデルカリキュラムを提示

カリキュラムマップの例



DPに掲げた学士力を身に付けるために、学科が履修を推奨する科目について、学年ごとの配置と相関を示した図

シラバスは

教員と学生の間における授業内容に関する「**契約書**」であり

大学が社会に対して**教育活動を説明する責任を果たす資料**となる。

シラバスは冊子で配布されたり、**大学のウェブサイト**で公開される。

授業の目的と到達目標：

当該授業において、何を学び、どのような能力を身につけることを目指すのか

授業計画：

各回の講義内容やスケジュールが具体的に記載

成績評価方法と基準：

どのように成績が評価されるのかの基準を明記

教科書・参考文献：

授業で使用する教科書や参考となる文献

履修上の注意点：

履修要件や、予習・復習など授業時間外の学習に関する指示

担当教員の連絡先：

質問や相談のための連絡先や**オフィスアワー**

大学教育の課題

「学問の自由」 (academic freedom) の履き違い

日本国憲法第23条

「学問の自由は、これを保障する」

研究・講義などの真理探究のための活動において

他者からの干渉や制限を受けない自由

よって、講義内容は担当教員が自由に決め、

成績評価は教員の裁量に委ねられる

→ 学生の満足度低下の原因

日本 Academic Freedom for Teachers

世界 Academic Freedom for Students and Teachers

文科省 FAQ (Frequently Asked Questions : よくある質問) 「監事は学校法人の業務を監査するが 監事の監査の対象は教学面も含むのか」

「私立学校におけるいわゆる**教学的な面と経営的な面とは密接不可分のもの**であり、また、学校法人が学校の設置管理を行うことを目的として設置される法人であることにかんがみれば、監事の監査対象である「学校法人の業務」は経営のみに限定されるものではないと考えます。

すなわち、**教学的な面についても**学校法人の経営に関連する問題である以上、「学校法人の業務」として監査の対象となり、適法性の観点だけにとどまらず、学校法人の運営上明らかに妥当ではないと判断される場合には、**監事は指摘することができると**考えます。

ただし、監事の監査が個々の教員の教育・研究の内容にまで立ち入ることは適当ではないと考えます。」

それでは、教学監査はどうすればよいのであろうか

**監事が教職員に直接ヒアリングすることや
新たな資料の作成を求めることは
できれば避けたい**

**教職員に、業務と直接関係のない
余計な仕事を増やしたくない**

→ すでに、大学が有する情報を利用

現場に負荷をかけることなく参照できる資料を利用

信頼できる第三者機関から評価を受けている資料

教学監査にあたって監事が参照すべき資料

1 大学認証評価結果

2 大学ポートレート

3 私立大学等改革総合支援事業

4 全国学生調査

5 生成AIの活用

教学監査にあたって参照すべき資料

1 大学認証評価

教育・研究の質保証をするために行われる評価制度

2004年度（平成16年度）から開始

大学は、設置から7年ごとに
文部科学大臣が認めた**認証評価機関※**による
評価を受審する（学校教育法第109条）

※ 認証評価機関

大学基準協会（公益財団法人）	国立大学、私立大学、公立大学
日本高等教育評価機構（公益財団法人）	私立大学協会会員中心
大学・短期大学基準協会（一般財団法人）	短期大学
大学改革支援・学位授与機構（独立行政法人）	国立大学中心
大学教育質保証・評価センター（一般財団法人）	公立大学

評価対象項目 大学基準協会の例

- 1 理念・目的
- 2 内部質保証
- 3 教育研究組織
- 4 教育課程・学習成果
- 5 学生の受入れ
- 6 教員・教員組織
- 7 学生支援
- 8 教育研究等環境
- 9 社会連携・社会貢献
- 10 大学運営・財務



自己評価と
第三者評価

公表される「評価結果」

○ 判定：適合／不適合

不適合となった場合でも、大学がつぶれるわけではない

- 私学助成の減額
- 公的な競争的資金への応募資格の喪失

などの措置が下される → 学生募集への影響は大きい

○ 提言（改善に関する指摘）

改善課題

是正勧告（重大な問題）

改善状況の公表（フォローアップ）
評価後の改善状況も公表される
大学が「改善報告書」を提出

監事は、**不適合**については直ちに対応を指示

改善課題、是正勧告についても対応状況を把握し
適宜、助言

中央教育審議会大学分科会 2025年より検討開始 高等教育の在り方に関する特別部会：大学認証評価制度の改 訂案

機関別評価から分野別評価へ → 大学評価から学部別評価へ

①文学関係 ②教育学・保育学関係 ③法学関係 ④経済学関係 ⑤社会学・社会福祉学関係 ⑥理学関係 ⑦工学関係 ⑧農学関係 ⑨獣医学関係 ⑩医学関係 ⑪歯学関係 ⑫薬学関係 ⑬家政関係 ⑭美術関係 ⑮音楽関係 ⑯体育関係 ⑰保健衛生学関係(看護関係) ⑱保健衛生学関係(リハビリテーション関係) ⑲保健衛生学関係(看護関係及びリハビリテーション関係以外) ⑳法曹養成関係 ㉑教員養成関係

適合／不適合ではなく

→ 教育の質を数段階で評価し、外部にわかりやすく公表

4段階評価

星3, 星2, 星1 ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆

要改善：DPとCPの整合性、単位認定の適切性など、学生の学びを中心とする項目が、法令の求める水準を満たしていない。

制度が変わっても、監事監査への影響はない！

教学監査にあたって参照すべき資料

2 大学ポートレート

学校教育法施行規則等の一部を改正する省令

（平成22年〔2010年〕文部科学省令第15号）

平成23年（2011年）4月1日から施行

大学が公表すべき情報の明確化

- ① 大学の説明責任（accountability）の強化
- ② 進学希望者の進路選択支援
- ② 大学の国際通用性（国際的信頼性）の向上

大学改革支援・学位授与機構

大学ポートレートセンターが運営

国公立大学の教育情報の公表

教学監査にあたって参照すべき資料

2 大学ポートレート（私学版）

日本私立学校振興・共済事業団（私学事業団）が運営

私立の大学、短期大学などが

その特色や実践している教育研究の取組を

進学希望者や保護者、進路指導者などに広く発信することで、
各学校の魅力や強みを社会に伝える魅力発信の場として開設

大学ポートレートへの参加・公表は各大学の任意

このため、大学ポートレートへ参加していない大学（33大学）
の情報は公表されていない

ただし、ほとんどの私立大学（589校）は参加している

大学ポータルサイトの利点

大学のホームページでは、データが散在しているうえ
大学に不利な情報は載っていない

○大学ポータルサイトでは、共通の枠組みで情報を公表しているため
異なる大学でも同じ定義の情報を得ることができ
相互比較が容易となる

○情報を開示していない場合
その大学には開示したくない理由があるということが分かる

○誰でも自由に閲覧できる（会員登録不要）

○高校生が大学を選択する際の資料として有用である

教学監査にあたって参照すべき資料

3 私立大学等改革総合支援事業（112億円）

未来を支える人材を育む特色ある教育研究の推進等のために
全学的・組織的改革に取り組む私立大学を重点的に支援

特徴：調査票の点数により選定

ループリックが設定されており、自己採点で点数を確認できる

支援対象の4分野と1校当たりの年間支援額

タイプ1: 教育 1100万円

タイプ2: 研究 2600万円

タイプ3: 地域社会貢献 1100万円

タイプ4: 社会実装 1400万円

令和6年度 535校（短大、専門学校を含む）から申請があり、
225校を選定

※ 選定校には一般補助の増額もある 1校当たり最大2,500万円

私立大学等改革総合支援事業の利点

調査票（ループリック）によって
自分の大学の現状を把握できる

何ができていないかを把握し、大学改革につなげることができる

教職協働がうまく進んでいるかの指標となる

大学改革を進めれば、特別補助、一般補助の増額が
獲得できる（努力の成果に対する対価）

課題

事業に参加していない私立大学（250校程度）がある
（挑戦する前からあきらめている）

教学監査にあたって参照すべき資料

4 全国学生調査

2018年11月中教審答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」

学修者本位の教育への転換

(教え中心から学び中心の教育への転換)

2019年度に試行調査が開始

2025年度から本格実施 (すでに4回の試行)

2026年秋に結果の公表

各大学が次のいずれかを選択

- ①文科省が実施するインターネット調査に参加
- ②大学独自の学生調査の中に全国学生調査の質問項目を組み込んで実施

②公表に同意した大学の回答全体の集計結果を公表

* ①②いずれも、集計基準を満たしている場合に文科省のホームページで公表する。

* 参加大学には、当該大学の学生の回答一覧や自大学の分析に活用できる資料を提供する

教学監査にあたって参照すべき資料

4 全国学生調査

質問項目に関しては

大学の負担を軽減し、経年比較を可能にするため、当面は原則として、第4回試行調査の「選択式33問程度、自由記述1問」から**変更しない**。

- ① 授業の内容・教育方法 CPなど
- ② 大学での経験 インターンシップ、海外留学など
- ③ 身に付いた知識・能力 学士力：DPなど
- ④ 大学教育への評価
- ⑤ 1週間の生活時間 授業外学習や部活動、アルバイトなど

調査結果の公表や活用

〈文科省による**公表**〉

①各質問項目で**肯定的な回答の割合が高い大学について、学部ごとに上位から一覧化した「ポジティブリスト」を公表**

②公表に同意した大学の回答全体の集計結果を公表

〈文科省による**活用**〉

大学認証評価の参考指標、**私学助成との連動**

大学教育再生戦略推進費の申請や採択条件

学生調査は、教育の質保証にとって重要である

海外では、**大学の認証評価（accreditation）**に学生の参画が当たり前
高等教育質保証機関国際ネットワーク（INQAAHE）

のガイドラインでは学生参画が必須

一方

日本では、教えを受ける側が教える側を評価するのはけしからんという
発想の教員が多い

→ 授業アンケートに対しても否定的である

教学監査の視点

1 大学として全国学生調査に協力しているかどうか
参加していない場合は、参加を促す

2 回収率ほどの程度か
大学として学生に回答を呼びかけ、回収率を上げるよう努める

3 回答結果の分析を行い、教学改革に活用しているか

教学監査にあたって参照すべき資料

5 生成AIに聞く

大学の状況を知りたいときは
事務職員にいきなり聞くのではなく
監事自ら調べる

生成AIに聞いてみる

〇〇大学のSWOT分析をしてください
〇〇大学の教育における課題を教えてください

※ 情報をアップロードしなければ、情報漏洩の心配はない

AIを利用して**大学**の**SWOT**分析をする

strengths **w**eaknesses **o**pportunities **t**hreats

強み

弱み

機会

脅威

内部環境

外部要因

監事にとっても基本
自大学のSWOT分析をしよう

大学だけでなく
大学院、学部、学科、附置研究所、病院なども対象

文部科学省の生成AIによるSWOT分析

1. 強み Strengths

教育は国家百年の大計

教育と科学技術を一体で所掌する国の将来を支える国家機関

2. 弱み Weaknesses

縦割り組織の弊害

評価作業の増加：評価疲れ

基盤的経費より競争的・時限的支援への偏りがある

3. 機会 Opportunities

生成AIと教育DX等による**教育改革推進**

生涯学習市場の拡大

4. 脅威 Threats

少子化と教育機関の縮小

教員負荷増大による学校現場の疲弊

日本の研究力低下

SWOT分析から導かれる重点戦略（生成AIの提言）

- 1 教育・研究DXの共通基盤の構築
- 2 補助事業の統合と基盤的経費への転換
- 3 高校・大学・大学院・産業界の一体改革
- 4 少子化を前提とした教育提供体制の再設計
- 5 政策評価を「事業実施」から「成果・インパクト」への転換

従来の

「**制度をつくり補助金を配分する官庁**」

から、教育・研究データを活用し

「**国の将来を支える人的資本・知識基盤の司令塔**」
への転換

教学監査のポイント

大学における監事のミッション

大学の価値を向上させるために助言や提言を行う

大学の価値：教学の高度化：学びの向上

教学監査は重要であるが、その範囲は広い

外部の信頼できる機関が大学を評価し、
公表している内容を吟味して、その改善を提言する
例) 大学認証評価

AIを活用すると、散在しているデータを整理・分析し

提言も提示してくれる

ただし、最終的には

人（監事）による確認が必要となる